

不思議な造形で池を飾っている。

さざなみに いざよう鴨は面白き 枯れて浮きし 蓮実とただよう

- ① 東光寺(薬師如来)には南極星の化身といわれる中国の道士の**福祿寿**を祀っている。ユニークなその風貌は、人々に幸福と封祿と長寿を与えられている。

いでいでと 頭をなげてありがたや 福祿寿は 東光の寺

- ② 次の**極楽寺**(十一面観音菩薩)には**寿老人**がいる。やはり中国の老子で、老人星の化身とも言われている。いまさらと思うが長命を祈願する。悲しいかな・・・、まだまだやりたい事があるというのか?

はかなきと 寄る年波は身にしみて 寿老人に祈る 極楽の寺

耕雲寺までの道程に**出雲大神宮**が座している。朱塗りの鳥居くぐると厳かな気持ちになるから不思議だ。御影山の御神体に神が鎮座したのが皇祖より壺万年以前という。大八州国祖神社と書かれている。国常立尊(国創り神世七代の一神で国之常立神のこと)の神蹟という。出雲の姫などが居出まして、なにやら古事記以前の世界に入ったようだ。

- ③ **耕雲寺**(聖観世音菩薩)は前の二寺より高い場所にある。丹波の里が一望できて素晴らしい景観だ。車塚古墳の向こうに行者山の頂が見える。行者山の中腹には、空海が唐から帰国するとき独鈷を投げたところ、この地に飛んできたといわれていて、どつこ観音様が祭られている千手寺が創建されている。(近いうちに登ろうか)

周囲を山並みに囲まれた丹波盆地は特有の気候条件で霧の発生が多いといわれている。此处ここから見る雲海の風景も捨てがたいものだろうな・・・。雲海を海にみたてて釣り糸をたれている**恵比寿(夷)**さんを想像する。

七福神の中では唯一の日本の神で、イザナギ/尊の第3子であるといわれている。

富貴如意と 願いて ふっと大笑い 海老で釣れるか 夷の大鯛
雲海に 大竿投げて 災いを 祓ってくれるか 夷さま

- ④ 次は**弁財天**を祀っている**金光寺**(阿弥陀如来坐像)である。竹林の小道を行くと、丹波の古びた集落の白壁の家並みが整然と配されていて 沃野の広がり に点在していた。素晴らしい光景に魅入った。

弁財天は梵天(ヒンズー教では、須弥山の天上に住み諸天の中では最高地位に有り釈尊の守護者、)王の妃で、弁舌、知恵のインドの神であると共にあわせて福德・音楽の利益をも授けるといふ。琵琶を弾く美しい女性として描かれている。

七福神 巡る丹波路 風寒く 老鶯の声 時に澄みたり

住職の好意により、弁財天と、ひときわ鮮やかな紅梅の咲ける寺内で昼食となり、集合写真、一般参加者の紹介があった。下の挿入画は、山下夫人が七福神をすばやく写生したもので、福神それぞれの特徴ある和顔が良く表現されている。お許しを得て使わせてもらった。

- ⑤ 次は**大黒天**の**蔵宝寺**(薬師如来)である。七福神の中で天と称されるのは大黒天と毘沙門天・弁財天の三天部である。天界に住む神像で、以来、仏教守護神として人々に福德、御利益をもたらす神として信仰されるようになってきた。

遠き日の ふるさとの家々に 大黒の 姿で舞い来し 万歳なつかし

蔵宝寺から桜並木の七谷川を渡る。まだ硬い蕾がかすかな陽光を浴びて開花に精一杯背伸びしている。満開時にはこのあたりの場所は、多くの人々の喧騒に満ちて、橋詰に立てる巨大な布袋尊もさぞ嬉しいのかも知れない。

- ⑥ **養仙寺**(地藏菩薩)、別名**布袋寺**と呼ばれ親しまれている。七福神では唯一実在した中国の禅僧で弥勒菩薩の化身として崇められ、その和顔愛語はおおらかで、心癒されるものがある。

養仙寺 ^{きざし}石段行けば はらはらと布袋にふりし辛夷の花びら

⑦ 七福神めぐりの最後は神応寺の毘沙門天である。この天部は四天王の一人・多聞天のことである。



山下秀子さんの描いた七福神

仏教の世界観では、世界の中心は須弥山であり、その天界の四方の門を守護する四天王(持国天・増長天・広目天・多聞天)でインドの護世神の一人である。

東大寺戒壇院の四天王の塑像は天平時代の作で、拝観したときは心が引き締まったことを思い出した。この寺のもうひとつの見所は 330 体の石仏庭園である。

丹波路に いにしえの工人 息づきて
石仏並べる 神応の庭

これで七福神めぐりは終わった。

さてさて福々を呼べるかな?

日々楽し 巡る七福神で 福を呼ぶ

最後に参加された皆さん(我ら)の福德円満が成就されますように、祈願して一首

福々の 七福神が 集い漕ぐ

宝の船に 我らも乗りたや
合掌・・・・

感想文

丹波七福神巡り

若林憲治

八時(am)京都駅改札口に集合。CL 園上さん曰く、案内を差し上げた当初一人の参加者も無く、成立を含めてご心配も 何と、何と 24 名(内6名は一般参加者)の方々が参加され、天気にも恵まれ12kmのコースを約5時間程掛けて、山とは違い緊張感も無く、銘々(参加平均年齢70.?)談義を交わしながら、趣味を生かしながらの七福神巡りを行なった。

全国的に桜開花が今年は早く コースの中で『中の沢池』周りは、桜並木で少しは開花に期待もやはり京都より一山越すとまだまだの感あり 来週末頃には期待も??

今回の七福神の中で 弁財天(女性) 毘沙門天(怖い顔)の二福神を除けば 我が山友会参加メンバーにも負けず劣らずのスターが数名おられ(ご想像下さい)特に東光寺(福祿寿)、養仙寺(布袋尊) 帽子を取られ撮影会に望まれた光景は、公開山友ウォークならではのソフト初春のウォークを体感した次第。山友会の方々には メタボ(該当者はおられません) 昔黒髪(今回該当者有り)、お知り合いにおられたら是非共今回のコースを案内されたらその方の人生観は変わり メタボも昔黒髪 の方も自信が付くと思われしますので是非案内して下さい。

蔵宝寺(大黒天)にて話題になった 大黒天の右手に持っているのは何でしょうか? 桃? 香炉? との話題は付きませんでした 結論は宝玉(ほうじゅ)でした。(お寺に確認) 蛇足ながら 薬師如来様が手に持っておられるのは『薬壺』です。 スケジュール通りにコースは消化出来 JR 亀岡駅にて解散も、電車内では紫外線で陽に焼けられた方、それ以外で焼けられた方もおられ皆さん満喫して帰宅の途に付かれました。

養仙寺にて掲示されていた 『微笑みに勝る綺麗な化粧なし』 この言葉を肝に銘じて是からも歩き続けたいものです。